

## 平成24年度第三回森林環境保全基金運営委員会 議事録

開催日時 平成24年11月16日(金) 13時30分～15時30分  
開催場所 高知会館2階 天平の間  
参加者 (委員)  
根小田渡委員(委員長)、堀澤栄委員(副委員長)、片岡桂子委員、  
川村純史委員、林須賀委員、山中國保委員  
(事務局：高知県林業環境政策課)  
岩村課長、久保課長補佐(木の文化担当)、出口主任、吉田技師  
(事業担当課)  
林業改革課：岩原チーフ、木材産業課：谷脇チーフ  
環境共生課：倉野補佐、鳥獣対策課：門脇チーフ 大野主任  
欠席 井上将太委員、門田芳穂委員、窪田真一委員、時久恵子委員、

1. 林業環境政策課長挨拶

2. 議事

### 【1】平成24年度森林環境税活用事業の中間報告について

- ①・「みどりの環境整備支援事業」及び「公益林保全整備事業」について資料に基づき、  
林業改革課・岩原チーフが説明。  
・「みどりの環境整備支援事業」の2月補正(増額)について、林業改革課・岩原チーフ  
が口頭で説明

(質疑)

(根小田委員長)

みどりの環境整備支援事業の進捗状況は25%くらいですか。

(岩原チーフ)

はい、27%になっております。

(根小田委員長)

それは面積的なものですか。

(岩原チーフ)

お金の面です。

(根小田委員長)

金額的な面ですね。それで、国の予算が付いたという事ですね。「みどり」を活用する事業は何ですか。

(岩原チーフ)

造林事業という事業がございます。

(根小田委員長)

それがプラスされるんで、その部分に関わるものを補正予算でという事ですか。

(岩原チーフ)

はい。県の方も、12月予算に今、審議をこれからする予定でございまして、その分につきまして700万ほど不足していくということが今回判っております。ただ、要望量を精査したうえで、2月補正で提案させていただきたいと考えております。

(根小田委員長)

その点はここの委員会で、今日の委員会で了承するのですか。

(出口主任)

いえ。

(根小田委員長)

そういう事ではないと。

(出口主任)

来年1月の25年度予算審議を行う基金運営委員会の時に、別案件で審議をしていただきます。

(岩原チーフ)

来年1月の早い段階に補正予算の案を提出しますので、先行して実施させて頂く格好になりますので、この時点で、今日来られている委員の皆様にご了承いただいております。というのがございます。

(出口主任)

事務局から補足ですけれども、今日の資料の1ページに「みどりの環境整備支援事業」の過去の決算額が記載されていますが、23年度に比べますと24年度は、増額補正の話も先ほどありましたとおり、V字回復まではいきませんが着実に当初予算プラス補正ということで現場の森林整備が進むといった状況になるかと思っております。24年度につきまし

では「公益林保全整備事業」が間伐のメイン事業になってますので、その事業とあわせて県内の森林整備を進めていくといったことになります。

(山中委員)

質問なんですが、国庫補助と県の助成とあわせて、個人負担というのはどれくらいの割合になるのでしょうか。

(岩原チーフ)

県と国を併せた補助率が 68%あります。

(山中委員)

7割程度ですよ。

(岩原チーフ)

はい。事業費から補助金を差し引いた残りの半分程度をこの「みどりの環境整備支援事業」で補っていただいております。

(山中委員)

これは、当初の計画はそういう事だったですか。

(出口主任)

そうです。

(岩原チーフ)

負担金が半減するということで、所有者の方も安心して、除間伐ができるという部分で、大きい事業です。

(出口主任)

ただ、事業費は現場の難易度によって変動しますので、一律で負担金は幾らですというふうに答えは出てはきません。概ね、補助残のご負担分の半分を「みどりの環境整備支援事業」で支援させてもらっています。

(久保補佐)

ちなみに、「みどりの環境整備支援事業」を 700 万円増額補正するための財源としましては、24 年度において今年度、基金に税が入ってくる見込みが 1 億 6700 万円、それと昨年度からの繰越額が約 1 億 9200 万円。今年度の予算額は 3 億 2,900 万円ということで、3,000 万円弱の資金の余裕はあるということですので、そちらの方から充てるようになるかと思えます。

②「木の香るまちづくり推進事業」について資料に基づき木材産業課・谷脇チーフが説明。

(質疑)

(片岡委員)

今年度は募集と応募がほぼ一致したという感じで、応募はもっとあったけれども予算がもう尽きるので終わりという事ではなくて、ほぼ一致したという解釈で良いでしょうか。

(谷脇チーフ)

はい、そうです。

(林委員)

1箇所あたりの整備コストは、目標に比べて随分中間報告が238万円から82万5千円と少なくなってますけれども、これはやはり件数が多くなった関係ですか。

(谷脇チーフ)

そうですね、件数と実際に応募してくる方の一件あたりの申請額が少ないというのもあります。基本的には1/2の補助ですので、実際にエントリーする方の事業費が少ないと必然的にそうなります。

(林委員)

割と細々した事業が多かったという事ですか。

(谷脇チーフ)

はい、そうです。特に、先ほど少し内訳を申しましたが学校関連の関係が45施設と圧倒的に多くて、これが柵であったりとか、机とか椅子であったりとか、そういった関係の物ですから一件あたりの額は少ないということになります。

③「希少野生植物食害対策事業」について資料に基づき環境共生課・倉野補佐が説明。

(質疑)

(堀澤副委員長)

順としまして、まず調査をして、柵を設置して、3年目に回復したかどうかを調べるという事でしょうか。

(倉野補佐)

3年目からモニタリングを開始するという事です。

(堀澤副委員長)

3年目からですか。何年位続けるんですか。ずっとやるんですか。

(倉野補佐)

基本的には植生が回復したらと。復元したらという事で。

(堀澤副委員長)

それは何年というのは決まってないという事ですか。

(倉野補佐)

特には決まっていません。植生が早く生える所もあれば、陰地なんかは遅い所もありますので。

(堀澤副委員長)

そういうふうには私が申しましたのは、スライドで言いますと6枚目ですが「モニタリング調査結果①」というのを拝見して、これだと種の数だけで評価を示していますが、これだと説得力に欠けるかなと。それと、そうしますと種の数が増えて植生は豊かになったというのは、ちょっと判らない。草の量が増えたというのであれば、理解できるんですけど、その証拠が「モニタリング調査結果②」という結果であるとするならば、ちょっと客観性に欠けるかなという気がいたしまして、顕著に増えましたというふうに今、仰っていただいたんですけど、ちょっとこの資料では。私は納得しなかったというのがございます。それで素直に、私がこの①のグラフを捲って頂いたら、今まだ現状維持というふうには読み取れるかと思うんですけども、それは私の考えが悪いのでしょうか。

(倉野補佐)

確かに資料を付けていますが、植生種だけをグラフにしておりますけども、調査としましては先ほども申しました植比率で、1m角で何%くらい草に覆われているとか、高さ、成長度合いとか、三要素を調査しております。たまたま1つしか載せておりませんが、速報値でございまして整理の方がまだできておりません。

(堀澤副委員長)

そういう意味ではですね、今の報告を拝見した限りでは、まだ効果がちょっと判らないというのが、私の正直な感想です。

(倉野補佐)

次回から、この委員会に間に合うように資料を整理して配布したいと思いますので、申

し訳ございません。

(山中委員)

計画を立てて、いろいろな箇所で行われてますね。私もこれに出ている所はかなり登っていますが、非常に見るのが悲しいくらい状況になってはいますが、これはもちろん調査はモニタリングですから、是非にという事ではない訳ですが、行政側として本格的に森の復興へという取り組みについては、これは県だけじゃ勿論いかないし、国、市町村含めて取り組まなければいけない大変重要な時期にさしかかっているんですが、その委託されてやっているその程度というか、これは、あっさり言って森の復興に資する基本的なデータであるというような認識か、あるいは少しでも回復をしていきますよというような意識なのか、そのあたりの捉え方というのはどうでしょうか。

(倉野補佐)

私どもは特に希少種、絶滅危惧種という一番厳しい状況のところを基本的には優先的にやっていきたいと思っております。やはり、食害の状況と、希少種のバランスを考えながら限られた予算内ですので、緊急度の高いそういうところから保全に努めていきたいと考えております。

④「シカ広域捕獲推進事業」について資料に基づき鳥獣対策課・大野主任が説明。

(質疑)

(川村委員)

9 ページに出ている分の連携の方なんですけれども、これが高知県の場合は香美市と東洋町、本山町と大豊町になっているんですけれども、これは何か。大豊町と本山町は隣接していますが、その他は離れているような感じがするんですけど。

(大野主任)

東洋町につきましては徳島県と一緒に連携捕獲をするという事で、徳島県の市町村と一緒にやったという事でここに入っております。

(川村委員)

私は大川村なんですけれども、地元も 10 年くらい前からシカの害があって、ある程度、嶺北地域とかそういう状態の分で、そういうのを何か言っていただくというか、呼び掛けて貰う方が効果があるのかなと思います。

結局、こういう所でやっていくと、シカがこちらの方へまた逃げてくるんですが、今の狩猟期でも片方の山は狩猟をしっかりやって、もう片方の山を狩猟していなかったら、していない方へ逃げてきます。シカも賢いから考えているんで、そういうのをある程度、大々

的にやっついていかないと、なかなかシカが減っていかないんじゃないかなとは思っています。

(大野主任)

連携捕獲につきましては、猟友会の協力も得ながら市町村に声を掛けて、それで実施を今後も続けていきたいと思っております。この事業以外にも、これは日当制の事業なんですけれども、シカの報奨金につきましては有害期間、狩猟期以外は市町村の方で単独事業で報奨金を支払っていただいております。狩猟期につきましては、県の一般事業で「個体数調整事業」という事業を設けまして、そこで1頭 8,000 円の報奨金を県の方で支出をさせていただいております。こういった事業をやる中で、連携した捕獲についても働きかけていきたいと考えております。

(片岡委員)

目標値は参加市町村が 14 で、現在 4 市町しか参加していないという事なんですけど、これはやはり市町村の方の負担が大きいという事が原因ですか。

(大野主任)

市町村の方にも声を掛けており、広く担当者会であるとかそういった機会を通じましてご説明はさせていただいているところなんですけども、一つは市町村の方で捕獲報奨金制度があるという事で、日当制の事業まではちょっと止めておこうかという市町村も多くございまして、日当制で払ってやっついていこうという事で今のところ参加している市町村は 4 市町という事になっております。

(山中委員)

今、改良されているワナは 75kg くらいですか。

(大野主任)

2つ作りまして、1つが 97kg、もう1つが 76kg となつてまして、構造は、従来のワナにつきましては、面が全て金網で作られておりますけれども、これを繊維製の物に変えております。そういった事で軽量化を図っておりますけれども、それが実際、捕獲をした時に耐えられるかどうかというのをこれから検証をしながら、材質等もこれから今年度の事業で研究していきたいと考えております。

(山中委員)

私はむしろ、ワナも改良されていくのも良いと思いますけれども、本当に捕ろうとすればワナが一番良いと思います。ただ、ワナを大々的にやると他の影響へも、狩猟者とかいろいろ、この影響がある事はあるんですが、本当に捕ろうとすればワナが比較的効率ではないかと思いますが、そのあたりはどうなんですか。

(大野主任)

現在、県の方で狩猟期の部分につきましては集計もしたところなんですけれども、確かにワナの捕獲が、狩猟者の方も増えてまして、ワナの捕獲も増えております。銃猟で当然やられる方もおいでになる場所なんですけれども、どちらが良いかという事は、なかなか言い切れないところがあります。

(山中委員)

これは難しいです、本当に。捕獲率は0.2か0.3くらい。0.1台くらいですかね。

(大野主任)

銃猟で、ある専門機関が言うところによると、だいたい0.15くらいだという事でご説明はいただいております。くくりワナというワナもあるんですが、そういった物では0.01であるとかいう事なんですけれど、くくりワナなどの場合は1人が30個まで設置できますので、30個かければそれが30倍になります。

(山中委員)

私は今年もいくつかの山へ登りましたが、一番多かったのは石立ですね。ここで4頭会いましたので、これはやっぱり多いなと。三嶺なども毎年登ってますけれども、会う割合、最も人が多く通る時には会いにくい可能性もありますけれども、石立が今年は非常に多かったですね。それから川村委員も言われていましたが、シカの生息範囲はずっと拡大をしていってますので、例えば香南市なんかは本当に人里に近いところまで来ています。

シカの捕獲は大事な事ですが、非常に難しいと、しかし放ってはおけないという事で、この委員会でも随分これについては時間を取って話をしましたが、なんとか効率化が進めるようにやらなければ大変な状況です。

⑤林業環境政策課の事業、及び他課（教育委員会等）の事業について、資料に基づき林業環境政策課・出口主任が説明。

(質疑)

(出口主任)

今年度は例年に比べますと、うちの課の事業もそうなんですけれども、環境税の活用事業全体的に順調です。

元々、林業改革課が持っている事業が二期目が始まった頃は1億円オーバーで、1億円のレベルで半分しかできませんでしたみたいな落差があって、余計に上手くいっていないという印象もあったんでしょうけれども、今年度は「公益林保全整備事業」という新しい事業を中心に、森林整備は今のところ、宣伝効果、PRもあって各地域から良い反応が出てきている模様です。やはり、間伐事業が倒れてしまうと、環境税全体もちょっと傾いてしまうというところが、今年度は一応、大きな柱がしっかりとっていて、上手くいっている

ような印象を受けています。

(片岡委員)

ボランティアの研修についてなんですが、初級者コースと中級者コースの人数の内訳は何人ですか。

(出口主任)

両方 14 人ずつでした。

(片岡委員)

そうですか。

(出口主任)

今年度、幡多地域の方で新規のボランティアさんが 2 つ結成されて、そこの方が併せて 6 名程、初級の方の研修にご参加されていると、そういった事も増に繋がっています。

(片岡委員)

やったら面白いかなと思うのが、森林整備に関する基本的な知識の研修です。何の為に間伐しているのか判らずに間伐に参加している人はいっぱいいると思うんです。

(出口主任)

間伐する事が目的のような方達を対象とした研修ですよ。

(片岡委員)

そうです。その辺を切ってスッキリしたというので終わるというので、間伐の役割というか、何の為に間伐をしなければいけないのかとか、良い木材を作るためのノウハウじゃないですけど、考え方ですね、そういう講座をすると、たぶん、今、土佐の森さんとかは、自伐林家の方も結構参加していると思うんで、そういう人にとっては面白いかなと思ったりします。

(出口主任)

将来的に山をどんな姿にしていきたいのかっていう、そのビジョンを、皆さん色々お持ちだとは思いますが。概ねこの仕立て方、このスパンで作業をしていったら、こういった山になるよというところを、県の試験場なんかもシュミレートしているものがありますので、その講義とかがあったら面白いかも知れないですね。その後は、自分たちでどうしていくのか、オリジナルを考えていくというか。

(片岡委員)

間伐すると早く太るけど材質は柔らかくなるのか、そういうもっと基本的なところで良いと思うんですけども、特に判らずに皆さんやってると思うんですよ。木目は本当は均

等になった方が良いので強度間伐をたまにガッポリやるのではなくて、徐々にやっていった方が本当は良かったりとか、そういうのもあると、自分のやっている事の意味っていうのがあると、もうちょっと違う方向に意識も向いてくるのかなと。ただのレクリエーションじゃなくなっていくんじゃないかと思います。今は、倒してストレス発散みたいな、多分、そんな感じだと思うので。

(久保補佐)

では、来年は片岡さんが講義を。

(片岡委員)

それを突っ込まれたら答えを返せないの。

(出口主任)

試験研究的な裏付けがあった上での話が良いですね。

(片岡委員)

たぶん、それは結構、この前も mamori でちょっと出ました。

(川村委員)

それはやっぱり物事が判ってない状態がありますね。判っているようで判っていないんですよ。それが一般の人になったらまだ余計に判ってないんですよ。ただ知っているだけの人はいらんだけど、本当に聞いてみたら全く判ってない方が多いから、やっぱりそこをもうちょっとやってあげるべきじゃないかなとは思いますが。そうすると、もうちょっと興味を持ってくれると思うし、それと先ほど、森林教育の後継者の分で高校生とかのいろんな分野の方っていうのが、うちらでも今、一番の就職先が森林組合なんですよ。Uターンとかで帰ってくる人も多いし、特に嶺北はやっていかないかんで、今、一番、森林組合が、どんどん帰ってきて就職という人が多くて、みんなの方も森林組合とかは朝の時間が早いのと、夕方がかっちり終わるでしょ、残業はないでしょ。かえって、役場っていうのは人が居ないんで8時、9時まで仕事をして日曜日もやらないかんで凄く自分の時間が取れないっていうので、森林組合はその点非常に良い。それから、体の健康のためにも凄く良いみたいなんで、若い子なんかは森林組合。逆に今のそういう時にPRしてもらってどんどん入って貰わないと、今、山の方はお年寄り山はダメやということで、山をみんな捨てていってるでしょ。その中で若い人が抑えていくとそれでちょうど上手いこと山を守っていけるのかなとは思っているので、是非今、さっき言ったように31名とかいう凄く人数も、出てきたんじゃないかなと思うんです。この前もクローズアップ現代の方で林業も取り上げられてましたし、ドイツのね。僕らもあれを見てると凄いなと思ったので、ああいう元気になるようなものをどんどんやってもらったら良い。自動車に続く宝の山ですから、あれをもう一度見直して、それでこういう素晴らしい山に。若い女性が入ってやれば、もっともって山も元気になって、なんとかそんな点で上手く森林環境税を使って引っ張ってもらったらと思います。

## 【2】平成23年度森林環境税活用事業の総合評価表（案）について

資料に基づき林業環境政策課・出口主任が説明。

（質疑）

（林委員）

本課で実施すべき事項という表現がありますが、本課で実施というのはどういう事ですか。

（出口主任）

本課で実施というのは、環境税で実施をするのではなく、県の一般財源なり他の財源で、という意味です。

（山中委員）

お構いなければ、我々の参考資料として、皆さんそうだろうと思いますがレポートではそれなりに考えて出させて貰ったと思うんですが、ここの（評価欄の）10なら10というのは、なかなか出せないと思います、はっきりとは。これは8くらいだよ、これは1、1で、あとは判らないとかいう、それは出せないもんですか。

（出口主任）

それは、評価欄の各項目に何名の方が記入されたかという事を明記ということですか。

（山中委員）

かっちは出しにくいと思います。ですが、後でこれを見ればおおよそ推測できるかも。これを読んできっちりというのはなかなか、これは当然見たいと思いますけれども、評価欄でこれは2とか3とかありましたよというのを、それ位のものを何か出せませんか。

（出口主任）

委員の方にお配りすることについては特に差し支えありません。

（岩村課長）

今度お送りする25年度予算資料に同封して送付させていただきます。

（山中委員）

それを頂くと、委員にとって、さらに勉強になると思います。

(堀澤副委員長)

私もそれをお願いしようと思っておりました。評価欄に○ではなく数字を入れていただきたいです。

(出口主任)

はい。

(堀澤副委員長)

今回こういった評価を書かせて頂く機会があつて、大変、もう一度見つめ直す良い機会になりましたので、とても良い事だと思っております。

(出口主任)

ありがとうございます。

(岩村課長)

こういった意見を整理した上で、また1月の、来年度予算のご審議をしていただく時にも色々参考になろうかとも思います。

(出口主任)

このA3の紙は委員の皆さまから、こういった各事業についてご意見があったことは、元課にフィードバックします。それは、後々の制度設計にも活かす事もできますし、事業の質を高める意味においても大変なヒントになると思いますので。

## 【その他】

- ・平成25年度森林環境税活用事業の概要について

林業環境政策課・久保補佐が口頭で説明。

- ・質疑は特になし。

- ・来年1月の基金運営委員会開催日程について

1月9、10、11日のいずれかで実施したい旨を説明。後日、日程調整させていただくことを了承。

～以上をもって閉会～